

令和 4 年 6 月 3 日現在

機関番号：21301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K11061

研究課題名（和文）社会的養護のリービングケアにおける「性の自立」を支援する健康教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a health education program that supports sexual independence in leaving care within the social care framework

研究代表者

桑名 佳代子（Kuwana, Kayoko）

宮城大学・看護学群・教授

研究者番号：70154531

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：児童養護施設のリービングケアとして実施する健康の自立支援の実態を明らかにする目的で、全国の児童養護施設603の児童指導員、保育士、看護職に郵送による質問紙調査を行った。児童指導員・保育士557通（有効回答15.9%）、看護職38通（27.3%）を分析し、「こころの健康」と「性の健康」への支援不足が示された。「性に関する課題」の自由記述を内容分析した。児童指導員はアフターケアを見通した課題、保育士は性モラルの低さを課題としてインケアに注目し、看護職は性教育や養育環境を課題と認識していた。子どもの「性の自立」には3職種連携の連携支援が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会的養護のもとで育った子どもは、施設や里親家庭から措置解除されることにより多種多様の困難に突き当たる。新しい社会的養護のビジョンの1つに自立支援（リービングケア、アフターケア）が掲げられ、社会において自立的生活を形成、維持しうる能力を形成する重要性が指摘されている。しかし、わが国では社会的養護を離れる準備として実務的スキルへの支援は多いものの、健康の自己管理スキルに焦点を当てた報告は少なく、とくに「性の自立」に関する研究・実践報告はほとんど見当たらない。そこで、児童養護施設職員が認識するリービングケアにおける「性に関する課題」を明らかにし、子どもの「性の自立」支援の具体的方策を検討した。

研究成果の概要（英文）：A nationwide questionnaire-based survey was conducted to clarify the reality of support for health independence provided as leaving care at children's homes. Of the 603 children's social workers, childminders, and nurses working in children's homes that participated in the survey, completed questionnaire forms were recovered from 557 children's social workers and childminders and 38 nurses. Analysis of the responses revealed inadequate support for "mental health" and "sexual health." A content analysis of the descriptions of "sex-related issues" given by the three different types of childcare professional was conducted. Children's social workers recognized issues with future aftercare, childminders considered poor sexual morality to be an issue and focused on care within the institution, and nurses perceived sex education and upbringing environment to be issues. "Sexual independence" was found to require cooperative support from the three different types of professional.

研究分野：母性看護学・生涯発達看護学

キーワード：社会的養護 リービングケア 性の自立 健康教育 児童養護施設 里親 要保護児童

様式 C - 19 , F - 19 - 1 , Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

今日、児童虐待相談件数は年々増加の一途をたどり、それとともに社会的養護の量・質ともに拡充が求められている。2020年3月末において、全国の要保護児童は43,650人であり、そのなかで児童養護施設に入所している子どもは24,539人(56.2%)である(厚生労働省, 2021)。

社会的養護のもとで育った子どもは、施設や里親家庭から措置解除されることにより多種多様の困難に突き当たることが予測されるが、その実態や養育された生活環境がどのように社会的自立へ影響を及ぼしているかについて検討した報告は僅かである。東京都福祉保健局(2017)は、2005年から2015年の間に児童養護施設等を退所した1,965人を対象とした調査を実施し、637人(回答率32.4%)の結果を報告している。「施設退所直後にまず困ったこと」として多く回答があったものは、「孤独感・孤立感」、「金銭管理」(32.0%)、「生活費」(31.0%)であった。

そこで、新しい社会的養育ビジョンの1つに自立支援(リービング・ケア、アフター・ケア)が掲げられ、「子どもが成人になった際に社会において自立的生活を形成、維持しうる能力を形成し、また、そのための社会的基盤を整備する」と述べられている(厚生労働省, 2017)。

天羽(2002)は、日本にリービングケア(leaving care)の概念を紹介し、具体的展開として社会生活における諸手続き、金銭・生活/健康・人間関係・危機コントロール等のスキルを提案している。先進的にリービングケアを実施しているイギリスでは、2000年児童(リービングケア)法(The Children (Leaving Care) Act 2000)が、イングランドとウェールズで2001年に導入された。その目的は、若者が養護を離れる準備を整えるまで、養護からの移行を遅らせること、リービングケアのためのアセスメント、準備・計画を強化すること、養護後の若者のためによりよい個別的ケアを提供すること、ケアリーバー(社会的養護経験者)のための資金調達を改善することであった。養護を離れる準備にあたり、若者が望んでいる援助は、金銭管理、買物、料理、掃除など実務的スキル、自分の身の周りの清潔を保つこと、食事と健康、性の健康(sexual health)、薬物や飲酒へのアドバイスなど、自己管理スキル、それぞれのウェルビーイングを含めた情緒的スキルと対人関係スキル、そして役所の職員や家主や雇用者とのやりとりするための交渉スキルであり、とりわけ実務的スキルと自己管理スキルが重要な意味をもつとされる(Mike, 2012; 池上, 2015)。

わが国においては、社会的養護を離れる準備として前述の実務的スキルへの支援は多いものの、自己管理スキルの1つである性の健康に焦点を当てた支援はほとんど報告されていない。松原(2018)は、季刊「児童養護」の記事の分析から、自立支援における子どもの性の支援の必要性を認識する高まりは、施設による自立後のアフターケアが含まれた1998年の児童福祉法改正が影響していると指摘し、さらに90年代後半は、子どもの権利条約批准により、施設内性教育等を子どもの性的発達の権利保障として正面からとらえたと述べている。2000年代になると施設内の性的虐待が施設内リスクマネジメントの問題であるという指摘がなされ、2010年代には性的虐待の被虐待児童へのケアや性加害児童への介入に携わる心理職や児童指導員による研究、実践報告が見られるようになったと報告している。このように、児童養護施設における子どもの性的問題が論じられ、自立支援において性の支援の必要性が認識されながらも、太田(2010)がリービングケアの1つに「性的自立」を掲げ、自身で作成したスタートブックに「心と身体のこと」という性教育の内容を入れた実践報告の他には見当たらない。

そこで本研究は、児童養護施設における「性的自立」に向けたリービングケアを検討する目的で、退所を目前にした子ども達の性に関する課題を明らかにする全国的な実態調査を行った。児童養護施設において、自立支援を行っている職員は、「当該児童を受け持つ担当職員」が92.6%

である(みずほ情報総研株式会社,2018)ことから,子どもの直接の養育者である児童指導員と保育士,また性の健康を支援する専門職である看護職を対象として,3職種が捉える性に関する課題を明らかにし,児童養護施設のリーピングケアに必要とされる支援のあり方を検討した。

2. 研究の目的

児童養護施設のリーピングケアにおける児童指導員,保育士および看護職が認識している「性に関する課題」を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 対象者

全国の児童養護施設 603 施設のうち,職員数が不明の 2 施設を除く 601 施設において,子どもの養育にあたる児童指導員,保育士および看護職を対象とした。

児童指導員・保育士

常勤職員であり,子どもの養育に当たっている児童指導員と保育士の合計人数の約 3 分の 1 を調査対象とし,全部で 3,514 名を対象とした。

看護職

603 施設のうち常勤の看護職が配置されている 139 施設の看護職 139 名を対象とした。複数配置の場合は,勤務年数が長い看護職とした。

(2) 調査方法

全国児童養護施設協議会会長に調査内容を説明し,「平成 27・28 年度 全国児童養護施設一覧」より各施設の職員数の情報を得ることを含めて同意を得た。調査票は施設長あてに送付し,施設長から職員に配付頂き,施設名と記入者を無記名として個々の封筒で郵送回収した。

(3) 調査内容

調査票(児童指導員・保育士用)は 基礎情報,リーピングケアの取り組み状況,リーピングケアにおける性に関する課題(自由記述),リーピングケアへの意見・要望で構成した。看護職用は 基礎情報,看護職としての専門性・やりがい・困難,リーピングケアの取り組み状況,リーピングケアにおける性に関する課題(自由記述),リーピングケアへの意見・要望で構成した。今回は,リーピングケアの「健康の自律」への取り組み状況と児童指導員,保育士,看護職が自由記述した「性に関する課題」に焦点を当てて分析する。

(4) 分析方法

統計解析には IBM SPSS Statistics ver22 を用い,基本統計を算出し,2 群間の数値データの比較には t 検定を用いた。「性に関する課題」の自由記述は,Berelson B. の内容分析の手法(有馬,2007)を参考に,1 内容を 1 項目として含むセンテンスを記録単位(コード)とし,個々の記録単位を意味内容の類似性に基づき分類・命名し,サブカテゴリー,カテゴリー化した。1 つのセンテンスに複数の意味を含む場合は,文脈から適切な意味を判断し 1 コードとした。コードの解釈,分類,ネーミングは,共同研究者間にて検討を行い分析の信頼性を確保した。

(5) 倫理的配慮

所属大学の研究倫理専門委員会の承認(承認番号:宮城大第 1217 号)を得て実施した。

4. 研究成果

児童指導員・保育士の調査票の回収は 584 通(回収率 16.6%),看護師は 46 通(33.1%)であり,分析に使用した有効調査票は,児童指導員・保育士が 557 通(全体の 15.9%),看護師が 38 通(全体の 27.3%)であった。

(1) 対象者の属性

児童指導員の平均年齢は 34.2 (SD9.0) 歳であり、性別は半々、児童養護施設での平均経験年数は 8.5 (SD7.0) 年、最終学歴は大学・大学院で 8 割であった。保育士の平均年齢は 33.1 歳 (SD10.5) で女性が 77.2% を占め、児童養護施設での平均経験年数は 9.2 (SD8.7) 年、短期大学卒が 47.2% と最も多かった。看護職は、平均年齢 47.8 (SD11.3) 歳で男性 3 名 (7.9%) であり、看護職としての平均経験年数は 20.1 (SD11.2) 年、児童養護施設での平均経験年数は 5.0 (SD6.4) 年であり、最終学歴で「その他」としている准看護学校卒が 4 名 (10.5%) であった。職種は看護師 26 名 (68.4%)、保健師 5 名 (13.2%)、助産師 1 名 (2.6%)、養護教諭 2 名 (5.3%)、准看護師 4 名 (10.5%) であった。

(2) リーピングケアの「健康の自律」への取り組み状況

児童指導員および保育士におけるリーピングケアのなかでも「健康の自律」への取り組み状況では、「感染症の日常予防」「インフルエンザ予防接種等」の集団生活での予防が必要な項目への支援は実行しているものの、「あまり実行していない」「実行していない」を合わせて「こころの健康状態の自己判断」(45.1%)、「こころの健康で悩んだときの相談者・機関」(40.4%)、「メンタル不調による受診判断と受診方法」(52.3%) など、こころの健康への支援が課題である。また、「陰茎の異常の判断 (亀頭包皮等を含む)」(61.4%)、「射精のしくみの理解と自己管理」(49.4%)、「避妊法の知識・実行へのアクセス (男性)」(44.1%)、「性感染症の理解と症状の知識 (男女とも)」(43.2%) など、性に関する支援が実行されていないこと、特に男性への支援が少ないことが明らかであった。

看護職においては、「あまり実行していない」「実行していない」を合わせて、「ストレスの自覚・ストレスへの対応の仕方」(50.0%)、「こころの健康状態の自己判断」(57.9%)、「こころの健康で悩んだときの相談者・機関」(52.6%)、「メンタル不調による受診判断と受診方法」(57.9%) など、児童指導員・保育士と同様にこころの健康への支援を実行していない割合が高かった。また、「避妊法の知識・実行へのアクセス (女性)」(50.0%)、「妊娠の兆候と検査薬」(73.7%)、「陰茎の異常の判断 (亀頭包皮等を含む)」(86.8%)、「射精のしくみの理解と自己管理」(76.3%)、「避妊法の知識・実行へのアクセス (男性)」(68.4%)、「性感染症の理解と症状の知識 (男女とも)」(60.5%)、「性感染症の検査の受け方 (男女とも)」(76.3%) など、性に関する支援は看護職であっても取り組みが少ないことが明らかとなった。しかし、「慢性疾患をもつ者の継続受診・健康管理」「障がいをもつ者の継続受診・健康管理」「精神的疾患をもつ者の継続受診・健康管理」については、「徹底して実行」「まあまあ実行」を合わせると 84.2%、68.4%、65.7% が実行しており、看護師の専門性が活かされていた。

(3) 児童指導員・保育士・看護職の「性に関する課題」の認識

児童指導員

児童指導員のうち「性に関する課題」の自由記述欄に記載したものは 239 名 (82.4%) であり、全コードは 516 であった。【施設における性教育方法】(102, 19.8%)、【性に関する知識不足】(100, 19.4%)、【性モラルが低い】(81, 15.7%)、【異性との適切な距離】(56, 10.9%)、【養育背景・養育環境】(53, 10.3%)、【SNS 等の情報環境】(48, 9.3%)、【望まない妊娠・出産】(34, 6.6%)、【施設退所後の支援困難】(19, 3.7%)、【個別的な支援】(15, 2.9%)、【性感染症罹患】(8, 1.6%) の 10 カテゴリーが抽出された。

保育士

保育士のうち「性に関する課題」の自由記述欄に記載したものは 206 名 (77.2%) であり、全コードは 484 であった。【性モラルが低い】(106, 21.9%)、【施設における性教育方法】(99,

20.5%)、【性に関する知識不足】(95, 19.6%)、【異性との適切な距離】および【養育背景・養育環境】(各45, 9.3%)、【望まない妊娠出産】(36, 7.4%)、【SNS等の情報環境】(32, 6.6%)、【施設退所後の支援困難】(15, 3.1%)、【個別的な支援】(9, 1.9%)、【性感染症罹患】(2, 0.4%)の10カテゴリーが抽出された。

看護職

看護職のうち「性に関する課題」の自由記述欄に記載したものは32名(84.2%)であり、全コードは100であった。【施設における性教育方法】(49, 49.0%)、【養育背景・養育環境】(31, 31.0%)、【性に関する問題行動】(9, 9.0%)、【SNS等の情報環境】(6, 6.0%)、【障がいをもつ子ども】(5, 5.0%)の5カテゴリーで構成された。

本調査では、リービングケアの定義を示すとともに“高校3年生を想定し”と質問したが、養育背景や養育環境に言及する記載が多く見られた。谷口(2011)は、児童養護施設における子どもへの自立支援の全国調査を施設長と職員を対象に行い、自立支援の開始年齢について「入所直後から」が施設長36.3%、職員38.1%と最も多く、「一定の年齢に達したら」では中学・高校の入学時や高校3年生を区切りとしている回答が多かったと報告している。このことから、児童養護施設での自立支援の定義は、自立をある程度目前とした時期からとらえる視点と生活全体が自立支援ととらえる視点が混在しているのが現状とし、日々の生活支援の積み重ねがあって成り立つことから、定義は人によりさまざまであっても現状としては同じであると述べている。

しかし、イギリスでは「リービングケア」という名称のついたケアリーダー(社会的養護経験者)のための専門家によるサービスの導入は、1980年代半ばに遡るとされ、リービングケアの枠組みおよびプロジェクトが組織化され2000年児童(リービングケア)法に繋がっている。日本においても自立支援(リービングケア、アフターケア)の包括的な制度的枠組みを構築するというビジョンが示された(厚生労働省, 2017)。このビジョンでは、「ライフサイクルを見据えた支援」において「現状では、思春期・青年期、親になる準備期を経て、親としての妊娠出産期まで繋げていく自立支援施策は不十分である」と述べており、本研究の施設を離れる子ども達の性に関する課題を明らかにすることは、支援のあり方を検討するうえで意義があると考えられる。

わが国においては、児童養護施設のリービングケアにケアとして、子どもの健康問題とその支援についての報告はほとんど見当たらないが、今回の調査により、「こころの健康」と「性の健康」への支援が不足していることが示された。本調査における「性に関する課題」の認識の分析により、児童指導員と保育士、看護職において課題の認識に違いが認められた。児童指導員は、施設における性教育の必要性を認め、退所後の性行動と望まない妊娠・出産を問題に挙げながら退所後の支援困難を課題としていた。保育士は、性モラルの低さに注目し、愛着形成の課題や自己肯定感の低さを認識し、望まない妊娠・出産における養育体験の連鎖を指摘しており、また看護職は、施設における性教育方法を約半数が認識し、施設での性教育の必要性を感じているものの、職員の共通理解の困難、職員の教育力の不足を挙げて、手探りしている状況であった。このような各職種がもつ視点や専門性を発揮し、連携することにより、リービングケアをより強化することができると思われる。

この研究成果は、全国児童養護施設協議会と全国の児童養護施設に、詳細な分析結果を記載して報告書として郵送し還元した。さらに思春期の子どもに向けた性教育の冊子を作成し、施設職員・里親を対象とした研修会において、また子ども達の性の自立への保健教材として活用している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 桑名佳代子、桑名行雄、山本文枝 | 4. 巻 1巻2号 |
| 2. 論文標題 児童養護施設のリーピングケアにおける児童指導員・保育士・看護職の「性に関する課題」の認識 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 宮城大学研究ジャーナル | 6. 最初と最後の頁 46 61 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 桑名佳代子、桑名行雄、山本文枝 |
| 2. 発表標題 児童養護施設のリーピングケアにおける看護職の「性に関する課題」の認識 |
| 3. 学会等名 第39回日本思春期学会学術集会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 桑名行雄、桑名佳代子、山本文枝 |
| 2. 発表標題 児童養護施設のリーピングケアにおける児童指導員の「性に関する課題」の認識 |
| 3. 学会等名 第38回日本思春期学会学術集会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 桑名佳代子、桑名行雄、山本文枝 |
| 2. 発表標題 児童養護施設のリーピングケアにおける保育士の「性に関する課題」の認識 |
| 3. 学会等名 第38回日本思春期学会学術集会 |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

桑名佳代子, 桑名行雄, 山岸利次, 鈴木重良, 藤田毅, 山本文枝: 児童養護施設のリービングケアにおける「健康の自律」支援の全国実態調査報告書, 2022年3月

| |
|--|
| |
|--|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|---|----|
| 研究分担者 | 山本 文枝 (Yamamoto Fumie) (40790556) | 宮城大学・看護学群・助教 (21301) | |
| 研究分担者 | 桑名 行雄 (Kuwana Yukio) (90258848) | 東北文化学園大学・医療福祉学部・教授 (31310) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|